

問合せ先  
第二管区海上保安本部海洋情報部  
海洋調査課長 森  
022-363-0111代(内線2530)



平成26年6月13日  
第二管区海上保安本部  
午後3時発表

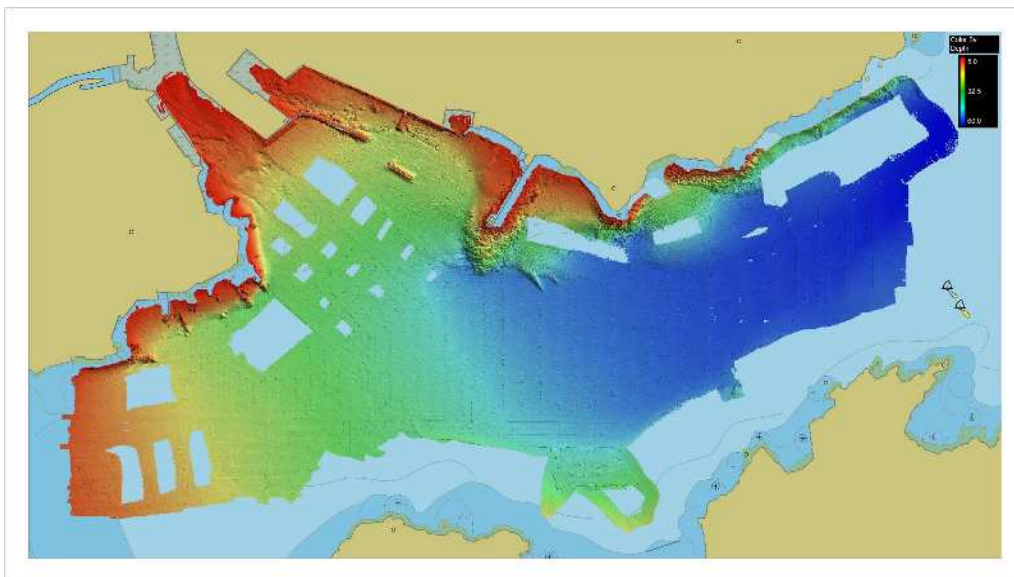
## 大槌港の水深測量成果（速報）について

被災した港湾の早期復旧のため計画的に行っている太平洋側港湾の水深測量のうち、大槌港の水深測量が終了しました。  
今回の水深測量により「ひょっこりひょうたん島」のモデルとも言われている蓬萊島周辺を含め大槌港全体の詳細な地形が分かりました。

5月24日から6月5日まで、測量船「天洋」(船長 西村浩一)により大槌港の水深測量を行いました。

今回の水深測量は大槌港及び大槌湾の海域について海図の最新維持を目的として実施しました。「ひょっこりひょうたん島」のモデルとも言われている蓬萊島周辺では沖合に向けて浅く伸びている海底地形の様子などが分かりました。

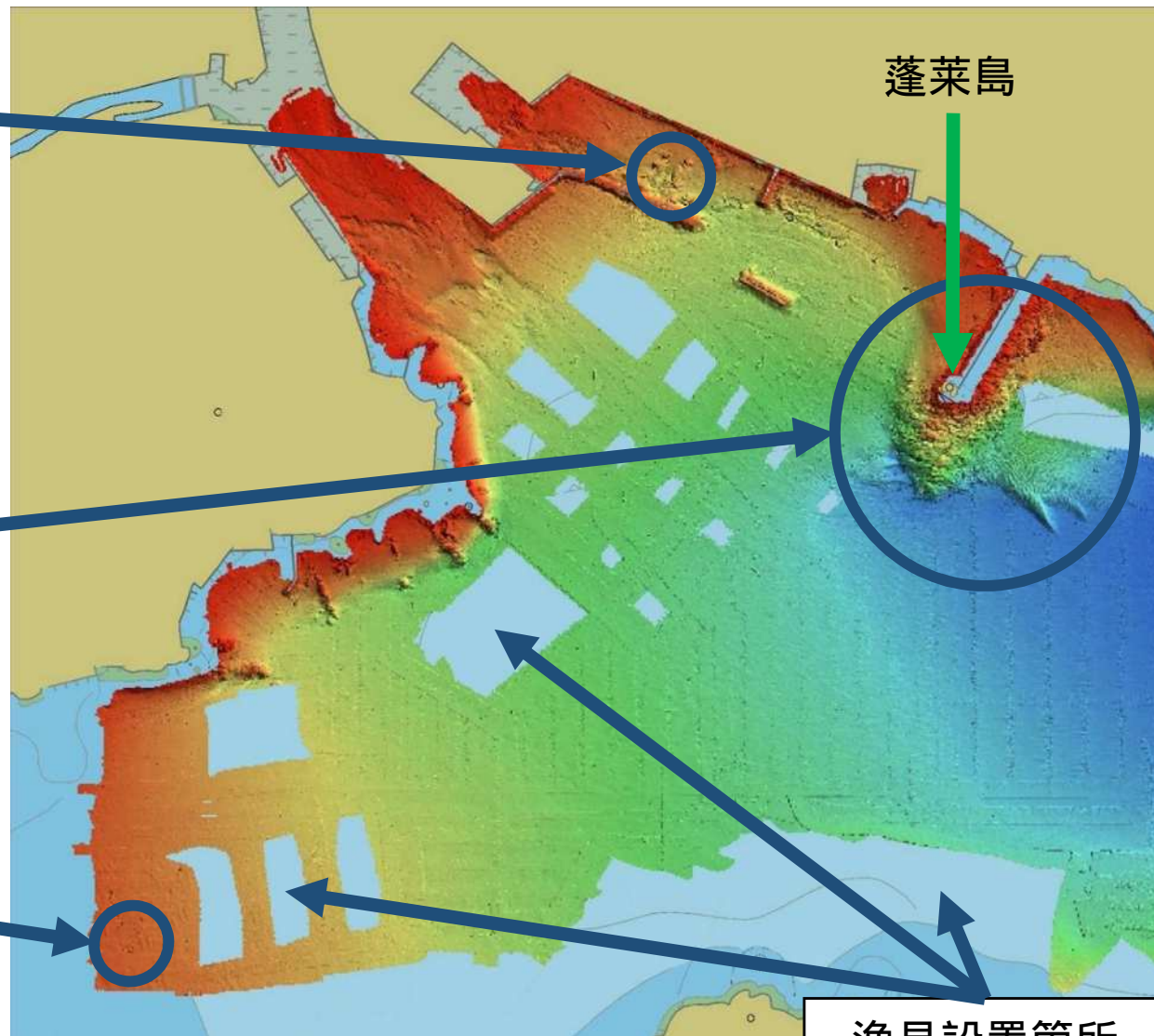
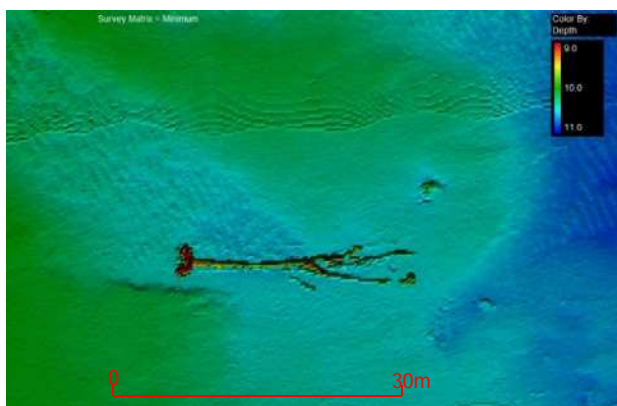
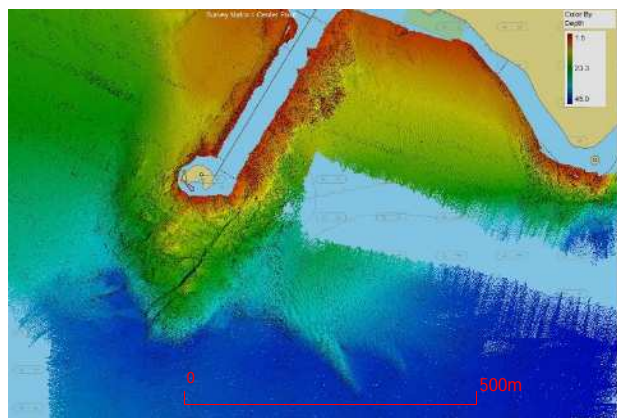
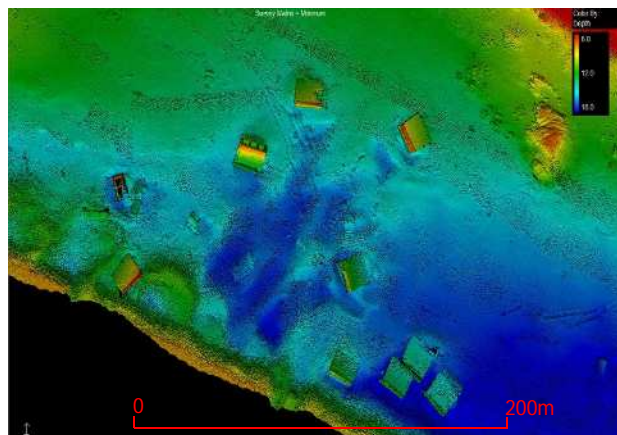
他にも、ケーソンと思われる物などが確認され、これらの物については、二管区水路通報により周知して航海の安全を確保しています。



大槌港海底地形図

カラー画像及び動画を希望の社は件名に「大槌港測量成果」と入力のうえ、「soumu-2@kaiho.mlit.go.jp」宛メールを送信してください。

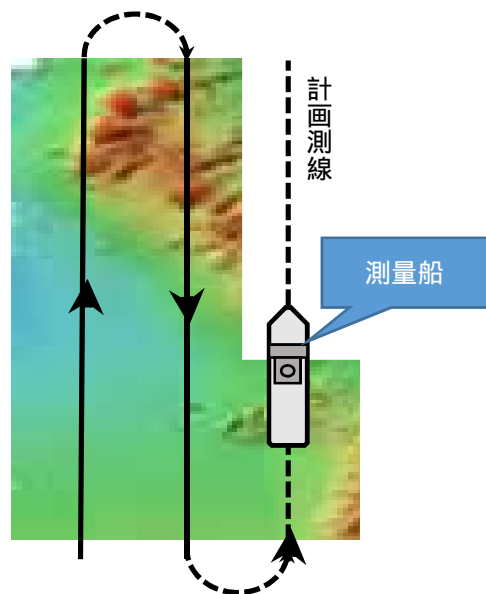
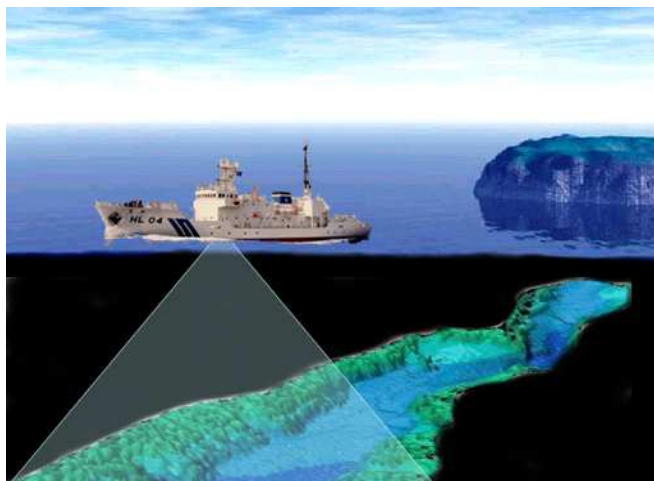
# 大槌港水深測量で得られた記録



漁具設置箇所



# 水深測量の概要

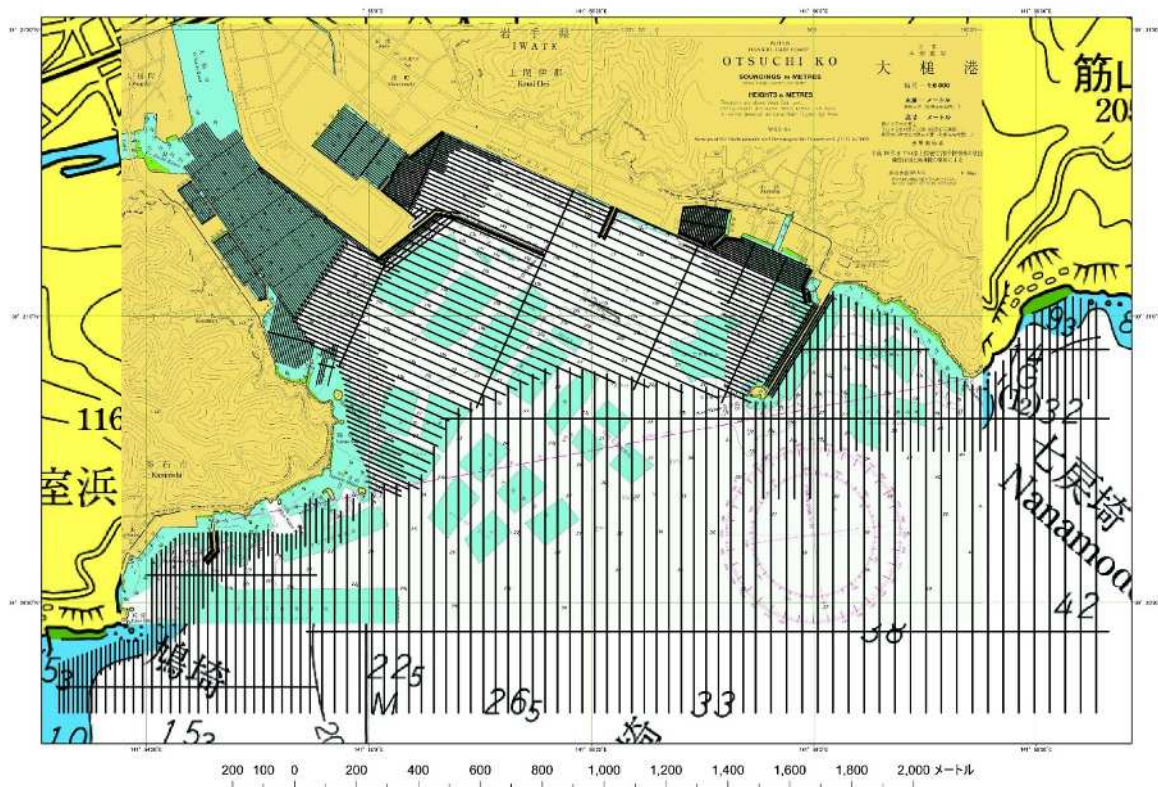


測量船から海底に向けて広角に音波を出し、音波の往復時間と水中での音の速度から水深を計測します。

船の航跡に沿って水深の約3倍以上の幅で海底地形を明らかにすることができます。測量船は、雑巾掛けをするように計画した測線を往復します。

下記の図の黒い実線は、今回の水路測量の計画線で、水深により間隔を変えて計画しています。

大槌港 計画測線図

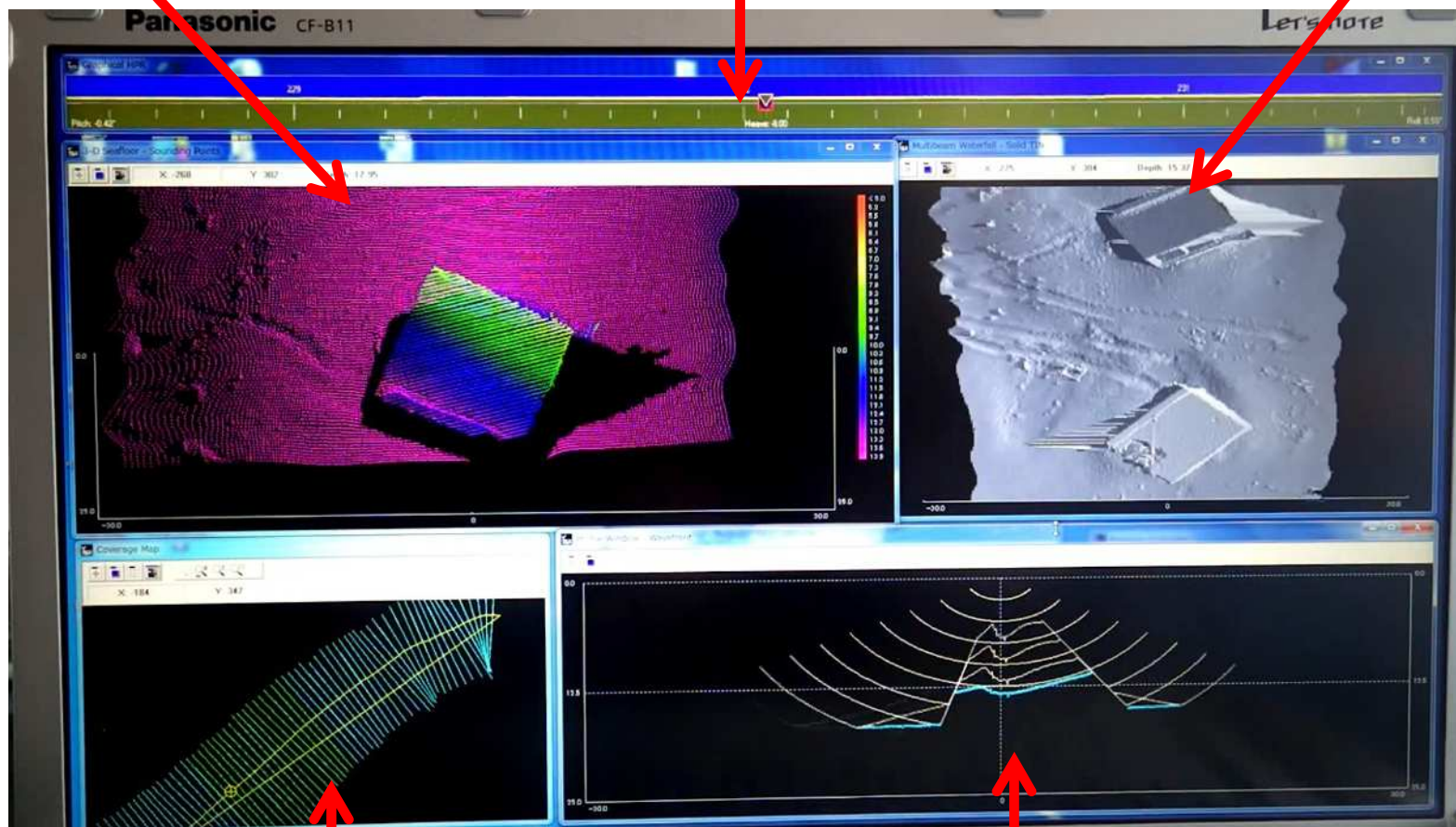


# 測量実施中の画面 (各画面の説明)

水深3D表示画面  
(色分け)

船首方位表示画面

海底地形表示画面  
(陰影)



音波が海底に届く範囲  
を表示する画面

海底断面表示画面

動画は大槌港のデータを再生したものです